

# 就任から丸1年を迎えた今治市の徳永繁樹市長

## 「オール今治」でコロナ禍を乗り越え、市民と共に未来への新しい風を確かなものへ

「ごども未来部」を新設するなど、組織改正で体制整備し、市民目線に徹する職員へと意識改革を

昨年2月に誕生した今治市の徳永市政が丸1年を経過した。新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返され、コロナ対応に忙殺される厳しい1年だったが、公約実現に注力し、市民の安全・安心や市の発展につながる未来志向の施策を着実に推し進めてきた。

そこで、徳永繁樹市長に登場いただき、就任から1年の市政運営を総括いただくとともに、2月に発表した組織改正の目的や中身を紹介してもらった。また、収束が見通せない中でコロナ対応に加えて、開港100周年を迎える今治港の整備及び活用、4年ぶりの開催となる「サイクリングしまなみ2022」などについて語ってもらった。

**必要な情報、行政サービスを本当に必要な人にタイムリーに届ける発信を強化する**

— 昨年2月の市長就任から丸1年が経過しました。滑り出しとなるこの1年の市政運営、公約の実現に向けた取組をどう総括されますか。

徳永 一番残念だったのは、新型コロナウイルスの感染拡大が第6波まで繰り返される中、3密回避などの感染対策のため、思うように市民の皆さんと対話、交流する機会がつけられなかったことで

す。その中でも、新規陽性者が減少した時期を中心に、できる限り市民や各種団体、事業者等の皆様と対話の場を設け耳を傾けてまいりましたが、それぞれの置かれた

立場や環境、ものの見方は千差万別であり、徳永市政1年目をどう評価いただけたのか、確たるものさしを持ち合わせていないというのが正直なところです。

また、就任したのはコロナ禍の

真っ只中で、収束するまで1年以上を要する見込みであったため、1年目を「ホップ、ステップ、ジャンプ」のホップとするのではなく、その前の「助走期間」と位置付けて市政運営に着手しました。

本来ならば、1年目からスタートダッシュで全力疾走、スピード感を持って様々な公約への着手・実行に移りたかったのですが、100年に一度のパンデミック、「未知のウイルス」との戦いの中、そこは市民の命と暮らしを守り抜くことを最優先に取り組んできました。



実際、科学的知見やエビデンスが乏しい中で、戦いであり、軌道修正をしながら試行錯誤を続ける、根本療法ではなく対処療法にならざるを得ず、とにもかくにもコロナ対応に時間をとられ、忙殺された1年だったというのが実感です。

政策実現に向けては、市役所の中で議論を積み重ねていくとともに、市民の皆さんにも素案を示し、様々なご意見、ご提言を頂戴しながら、そのキャッチボールの中で深掘りして成案を得るといったのが私が大切にしている手法です。多岐にわたる200項目以上の公約を掲げさせていただいたわけですが、本当に今治市のため、市民の皆さんのためになるものへと結実させていくには、少し時間をかけてでも練り上げていく必要があると考えています。

そうした中、直ちに取りかかれるものとしては、昨年8月に「市民が真ん中相談センター」を開設したほか、「日本一おいしい学校給食」事業、県立今治西高等学校

## 船主と共に伸びる



 今治造船株式会社

伯方分校及び県立今治北高等学校  
大三島分校の存続に向けた取組な  
どが始動し、一定の評価をいただ  
いているものと認識しています。  
ただし、相談センターも、表紙が  
変わるだけで中身が変わらないと  
意味がありません。窓口のたらい  
回しをなくすこと、徹底した市民  
目線に対応すること、市民に不利  
益だったものが有益に変わるこ  
となど、本来の目的を達成する拠点  
となるよう、随時、機能の充実を  
図ってまいります。

また、市民目線で言うならば、  
市政情報のほか、新型コロナウイルス  
感染症の関連情報などを本当  
に必要な方に、わかりやすくタイ  
ムリーにお届けする広報機能につ  
いては、かなり充実・強化しまし  
た。特に今のようなコロナ禍です  
から、市民や事業者の皆様への各  
種支援策や安全・安心につながる  
正確な情報に関するニーズが高  
く、その取組に対しても評価いた  
だいています。

また、今治の魅力を市内外に発  
信するテレビ広報を含め、シテイ

プロモーションにも力を入れてき  
ました。インバウンドも含めて、  
観光・交流人口の拡大がなかなか  
難しい局面であるものの、今治に  
宿泊してくれた昨年の修学旅行生  
の数は、前年の3倍以上と過去最  
多となりました。これもコロナの  
感染状況次第ですが、今年は今治  
港の開港100周年、国際サイク  
リング大会など、大規模イベント  
も目白押しであり、「観光再起動

## 新しい風を起すため、各部に「政策局」を 新設するなど、部局再編と連携強化を図る

—— 今年2月には、市役所の  
大幅な組織改正を発表されました  
が、その目的や主な改正点は。

**徳永** 徳永市政の本格始動とな  
る2年目を迎え、「市民が真ん中」  
の理念の下、マニフェスト実現に  
向けた取組をさらに加速させると  
ともに、きめ細やかで質の高い住  
民サービスを提供するため、迅速  
かつ着実に政策を推進することが  
できる組織体制を整備しました。  
その2本柱が、「市民が真ん中の

元年」となるよう取り組んでまい  
ります。

そして、1年間の取組を象徴す  
るような出来事として嬉しかった  
のは、宝島社が発行した「田舎暮  
らしの本2月号」の「住みたい田  
舎」ベストランキングにおいて、  
今治市が「子育て世代」と「シニ  
ア世代」で第1位、「若者世代・  
単身者」で第2位に輝いたこと  
です。

政策展開に向けた機能強化」と「  
新しい風」を起こすための部局再  
編と連携強化」です。

第一の機能強化については、  
「今治版ネウボラ」をより強力な  
体制の下で推進するため、「こと  
も未来部」を新設し、「こども未  
来課」と「ネウボラ政策課」、「保  
育幼稚園課」を設置しました。さ  
らに、様々な地域課題を迅速に解  
決していくため、「しまなみ住民  
課」と「しまなみ振興課」、しま

# BEMAC

Beam Metrical Alternative Creation

## BEMAC 株式会社

今治本社・みらい工場 〒794-8582 愛媛県今治市野間甲 105 番地

www.bemac-jp.com



# 住みたい田舎ベストランキング

宝島社「田舎暮らしの本」12月号

子育て世代が  
住みたいまち  
子育て部門

**1位**

シニア世代が  
住みたいまち  
シニア部門

**1位**

若者世代・専業主婦が  
住みたいまち  
若者部門

**2位**



## 「住みたい田舎」ベストランキング

一方、部局再編と連携強化では、部内の事務事業と予算、職員配置等の総合調整機能を強化し、各部署間の連携機能の強化を図るため、各部に「政策局」を新設するとともに、各局に局長、各局幹事課に政策推進担当を配置しました。

さらに、市役所の組織全体のマネジメントを実現するため、総務部門と財務部門を統合したほか、迅速な意思決定と優れた政策成果の達成を図るため、企画部

なみ沿線支所で構成される「しまなみ振興局」を総合政策部に設置しました。

また、今治市のDXを一層加速させるため、情報システム部門を集約し、未来づくり課を「未来デジタル課」に、市の教育大綱の実現に向けて積極的に取り組んでいくため、教育委員会事務局の総務課を「教育大綱推進課」にそれぞれ改称しました。

その他、中心市街地の生活、交

通、仕事の拠点へのリボーン（再生）に向けて、市民が真ん中課に「魅力都市創生室」を、エネルギーの地産地消に向けて、環境政策課に「地域エネルギー政策室」を、地域版総合商社の設立に向けて、i.i.imabari推進課に「あきない商社戦略室」を、郷土愛を育む給食の提供に向けて、学校給食課に「日本一おいしい給食係」を、それぞれ設置したところです。

門に秘書・広報、情報化、防災・危機管理等の機能を集約し、企画部を「総合政策部」に改称しました。

そして、教育長の補佐として、教育現場と行政の連携強化を図るため、事務局長に代わり「副教育長」を配置、交流人口の一層の拡大を図るため、教育委員会のスポーツ振興課及び文化振興課を産業部へ移管し、「観光課」と「スポーツ振興課」、「文化振興課」から

水産業の振興を集約し、産業部に「農林水産課」を設置するなど、改正に取り組みました。

これで体制はかなり整備されましたが、それぞれが本場に機能し、政策を大きく前進させていくためには、職員の意識改革が不可欠です。お役所の組織風土にありがちな、自分が真ん中の仕事の仕方、常にかたがた、何のめんどろ感を持ちつつ、足し算ではなく掛け算の効果を生む今治市役所へと、職員の意識を大きく変えていかなければなりません。

## しまなみ振興局を4月に設置し、その成果を市全体へ面的に広げて地域活性化に

公約関連では、しまなみ振興局の伯方島への設置が決定しました。この政策の目的と具体的な内容、期待される効果などをご紹介ください。

**徳永** 私がマニフェストに掲げた「しまなみ総合事務所（しまなみ振興局）」の設置については、

この1年、その組織のあり方の検討や業務の仕分け作業などを進めてきました。

それに合わせて、地域のストロングポイントを活かした魅力ある「まちづくり」と「産業づくり」、「ひとづくり」の推進をテーマに、しまなみ地域の3島が一体とな



(仮称) しまなみ総合事務所設置に向けたタウンミーティング

域のあり方と現在の課題について、意見交換をさせていただきますました。

タウンミーティングにご参加いただいた皆さんからは、「支所が無くなるのではないか」、「設置場所はどこか」といったご質問をいただく一方、「ネウボラのサテライト機能をはじめとする子育て支援の強化」、「地域組織の後継者育成」など、各種施策の実現に向けたご期待に加えて、「権限や予算の拡充」について

り、地域の振興策や地域住民の共助の力による持続的な地域づくりなどの検討も行ってきました。

その検討を進める上においては、やはり、地域の皆さんの声を大切にしたいとの思いから、昨年10月から11月にかけて島しょ部で開催したタウンミーティングの場で、その担任事務や人員配置、予算配分など、具体的な体制の素案をお示しするとともに、膝を突き合わせて、これからのしまなみ地

のご要望などの声をお聞かせいただき、本当に有意義な意見交換をさせていただけたと思っております。

さて、私が構想するしまなみ振興局の役割は、「支所機能を側面から補完」し、「しまなみ振興局と支所、支所間の連携を強化」すること、今まで支所ごとに点で行ってきた施策を面的な事業へと発展させ、より大きな効果を上げていくことです。

例えば、「観光振興施策」、「県立高等学校分校の存続支援」、「有害鳥獣対策」、「豪雨災害や今後予測される南海トラフ地震に向けた防災・減災への取組」など、地域の様々な課題に対しては、しまなみ地域が一体となり、課題解決に向けて面的に取り組むことで、大きな効果を生み出すことができると考えています。

そのためには、地域の皆さんの身近なところで問題意識を共有するとともに、しまなみ地域全体を俯瞰しながら施策を展開していく体制と、それに応じた予算、権限が必要であり、その役割を担うのがしまなみ振興局と考えています。

また、今治市、とりわけしまなみ地域は、人口減少が著しい地域ですが、反面、その地域が持つポテンシャルから、近年、移住・交流という点で、大きな注目を集めてきました。

そこで、しまなみ振興局には、「しまなみ地域に住みたいと思っている」方々に対して、住まい、

## 塩はやっぱり

大切な人を想う優しさの味が人から人へ受け継がれ  
愛される味となります。

いつまでも皆さまのそばに寄り添う  
そんな塩になれたらと、私たちは願っています。

伯方の塩は、輸入天日塩田塩を日本の海水で溶かして原料としています。



仕事、子育てなど、生活面の本当  
に必要とされる地域の最新情報を  
一つのパッケージとして提供する  
体制を構築します。そして、「選  
ばれるまち、しまなみ・今治」を  
テーマとして、この地域の移住・  
交流施策を強力に推進することに  
より、人口減少という大きな課題  
にも果敢に挑んでまいります。

しまなみ振興局は、今年4月1  
日に設置する予定です。先に申し  
上げた通り、しまなみ地域は、世  
界に誇る景観という魅力的なコン  
テンツを持ちながらも、市内にお  
いて特に人口減少が顕著という課  
題を抱えています。そこで、その  
魅力を活かした振興策や地域課題  
解決に向けた施策を実施すること  
により、人口減少の抑制に繋げて  
いく、一つのモデルとして取り組  
んでまいります。

本市は、平成の大合併により、  
中山間地域から島しょ部地域ま  
で、多種多様な地域が一つとなり  
ましたが、それぞれの地域に魅力  
的な地域資源がある一方、地域固  
有の課題を持ちあわせているのが

現状です。

そうした中で今回の取組は、  
その体制整備自体が「ゴール」と  
なるものではありません。その成  
果を新しい取組として市全体に面  
的に広げていき、地域の活性化や  
地域課題の解決など、より大きな  
成果に繋げていく、そのための

## 開港100周年を迎えた今治港の物流機能を 拡充し、市民や交流人口の賑わい創出の舞台に

今年2月には、今治港の  
開港100周年という大きな節目  
を迎えました。今治市や愛媛県、  
四国における今治港の海上物流拠  
点としての役割に加え、市民や交  
流人口の賑わい創出につながる整  
備事業の進展、オミクロン株の感  
染拡大が続く中、限定的ながらも  
記念事業の実施などについてお願  
いします。

徳永 今治港は1922年（大  
正11年）に四国初の開港場に指定  
されて以来、これまで地域を取り  
巻く環境や様々な社会情勢の変化  
に対応し、100年もの間、今治

「マイルストーン」となるもので  
す。

引き続き「市民が真ん中」の視  
点に立ち、しまなみエリアの将来  
像だけでなく、30年後の本市の姿  
を頭に描きながら、今治市という  
大きな「家族」のため、しっかりと  
取り組んでまいります。

市の発展を支え続けてきました。  
現在では、海事産業や繊維産業、  
エネルギー産業といった企業の集  
積を背景に、国内外の海上輸送の  
物流拠点として、また、芸予の島し  
よ部を結ぶ人流・交流の拠点とし  
て重要な役割を果たしています。

今治港は今治地区、蔵敷・鳥生  
地区、富田地区の3つの地区から  
構成されていますが、このうち物  
流港としての機能を担っているの  
が、市内中心部より南側に位置す  
る蔵敷・鳥生地区、富田地区とな  
ります。

とりわけ、海外との貿易拠点と



あったか〜い、心のおつきあい。

# JAおちいまばり





なる富田地区の国際物流ターミナルにおいては、造船・タオル産業をはじめとする地元企業のみならず、広域的な後背圏に立地する企業にとつても、重要な社会インフラとなっています。昨年は、新型コロナウイルスによる国際物流の混乱の影響を受けたものの、企業活動におけるサプライチェーンの国際化に伴い、引き続き高い水準での取扱量を維持しており、輸出入を行う地域の企業にとつては、いまや欠くことのできない施設として、その重要性はますます高まっています。

一方、これらの国際貨物を取り扱う上で、重要になってくるのが物流機能の整備であり、現在、富田地区に設置しているガントリークレーンは、1996年の供用開始から既に25年が経過しています。そのため老朽化によって補修費用が増大していること、また、突発的に機能停止となる可能性が高まっていることから、2023年度の供用開始に向け、更新を進めているところです。

今治港は西瀬戸自動車道や四国縦貫自動車道の整備により、海陸の交通ネットワークが拡充され、アクセス性に優れた拠点港湾です。この「瀬戸内のクロスポイント」とも言える立地的な特性を活かし、高速道路網の整備とも連携しながら、今後も港湾の物流機能の整備と充実を図ってまいります。

次に、「みなと」を中心とした賑わい創出への取組ですが、中心市街地に隣接する今治地区では、「交通」の港から「交流」の港を基本コンセプトに掲げ、港を含めた市内中心市街地に人が集まり、遊び、楽しむ空間への整備を進めています。

ハードの面では、国による今治港湾合同庁舎の建設が始まっています。現在、市内各所に点在している今治海上保安部と神戸税関松山税関支署今治出張所、今治海事事務所の3つの官署が集約化されれば、利便性が増し、中心市街地における地域連携が促進されることとなります。加えて、災害時の

一時避難場所としての機能を併せ持つ施設として、港を利用される方が安全に、そして、安心して使用できるように、国の機関とも連携しながら、内港地区の一体的な整備を進めているところです。

また、昨年11月には、市民参画による事業として、今治地区の片原緑地広場にサイクリストをはじめとする市民の憩いの場となる「KATHARA WOOD B A S E」が誕生しました。市民がみなとづくりに参画する「パブリックコンストラクション」という考え方のもと、民間事業者が主体となって、老朽化した施設を再整備したものです。「市民が真ん中」の視点に立ち、今治の未来に新しい風をおこそうと進めている市政の中において、市民と一体となって進められた全国的に見ても珍しい事業であるといえます。

他方、ソフトの面では、これらの空間を活用するイベント等を実施するほか、中心市街地での市民活動及び観光船やサイクリング等の地域資源とうまく連携すること



- ◇内科
- ◇呼吸器内科
- ◇消化器内科
- ◇循環器内科
- ◇泌尿器科
- ◇放射線科
- ◇リハビリテーション科
- ◆人間ドック

医療法人 順天会

# 放射線第一病院

今治市北日吉町1-10-50 ☎0898-23-3358

介護老人保健施設 八恵苑 ● 第一訪問看護ステーション かとれあ ● 居宅介護支援センター かとれあ



によって、まちなかに賑わいやコミュニティを生み出していくことを目指し、調査・検討を行っているところだ。

開港100周年となる今年には、海や港と共に発展してきた「海事都市今治」の魅力を市内外へ発信するとともに、市や港湾関連企業で構成される今治市港湾振興協会を中心として、内港地区での記念イベントの開催を予定している

す。イベントでは、中核施設であるみなと交流センターや600mのコンコースを活用し、船に親しんでもらうための体験航海やマルシェ、ステージイベントなどの記念事業を展開します。新しい港の活かし方や楽しみ方を創造し、定着させることによって、今治港を中心とした持続的な賑わいの創出につなげたいと考えています。

新型コロナウイルスの影響によ

## 4年ぶりの国際サイクリング大会と今治フレテリウムを安全・安心に開催し、ブランド力のさらなる向上と魅力発信を

10月には、国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ2022」が開催されます。新型コロナウイルスの感染が抑止される中で、多くのサイクリストに久しぶりの国際大会を楽しんでもらいたいものですが、市長の思いは。また、どのような大会を計画されていますか。

徳永 2年前の「サイク

り、多くのイベントが中止、延期を余儀なくされている状況ではありますが、記念イベントの開催は市民の皆さんに街への想い、みなとへの関心を再認識していただける大きなきっかけを提供できるものと認識しています。開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染状況にも注視しながら柔軟に対応し、また、感染対策には万全を期してきたいと考えています。

リングしまなみ2020」は、募集開始目前のところ、新型コロナウイルスの感染が世界各地に広がり、収束の見通しが立たなかったことから、参加者の皆さんやボランティアをはじめとするスタッフの方々の安全を考慮し、中止の判断となりました。今回の「サイクリングしまなみ2022」は2018年以来、実に4年ぶりに7,000名が参加する大規模大会での開催となります。

しまなみ海道サイクリングロードは、2014年に初開催された「サイクリングしまなみ」の成功をきっかけに、米CNNから「世界7大サイクリングルート」の一つに選定され、「サイクリストの聖地」とも謳われるようになりました。その結果、国内はもちろん、海外からも多くのサイクリストが訪れるようになっているところです。そうした中、レンタサイクル事業をはじめとした受入環境や安全安心な走行環境の整備など、継続的な取組が認められ、2019年11月には国土交通省から、日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートとして、「第1次ナショナルサイクルート」の指定を受けるまでに成長しました。

今大会ではコースを大きく変更する計画となっています。これまでは、今治側のフィニッシュ会場を旧市内山側の「しまなみアースランド」に設定していましたが、今回は、中心市街地の今治港周辺とし、約4,700名のサイクリストをお迎えして、まちなかに賑

開港100周年を迎えた今治港





国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」

わいを創出したいと考えています。今治港を含む中心市街地に人が集まり、遊び、楽しむ空間として、まちなかへの「にぎわいやコミュニティの創出」を目指し、新たな人流による価値の創出と魅力の再発見につながると考えています。

また、私自身、非常に楽しみにしているのが、大会前日に行われる四国初開催となる「第1回今治

クリテリウム」です。今治商工会議所創立120周年記念のメイン事業として、日本最高峰のトップ選手により争われる年間シリーズ戦「Jプロツアー」のロードレース最終戦に位置づけられています。クリテリウムとは、自転車競技における短距離周回コースを走るレースのことです。今治港周辺のみならず交流センター「はーばりー」を中心とした市街地コースをプロライダーが競い合って走り抜け、迫力あるスピードでの

駆け引きが展開される様子を観戦することができます。まちなかを舞台に繰り広げられる二つの大会が大きな相乗効果を生み、新たな今治の魅力を国内外に力強く発信できると確信しています。

今治市サイクルシティ推進計画では、「誰もが安全に安心して自転車を利用できる環境を整えるとともに、しまなみ海道を核としたサイクリング環境のグローバル化

による地域の活性化」を目的に掲げています。そうした中、「サイクリングしまなみ」や「今治クリテリウム」を通じ、主役となる市民の皆さんに、しまなみを走る楽しさと観る面白さをしっかりと感じとっていただきたいと思っています。そして、自転車により身近なものとして評価され、その結果、地域一体となったおもてなしの心が育まれることにより、安心してサイクリングできるしまなみの魅力向上につながるとともに、誰もが訪れてみたい「サイクルシティIMABARI」として、大きな広がりを見せていくと考えています。

新型コロナウイルス感染症の一刻も早い事態の収束を願う中、今大会では十分な感染防止対策を講じ、安全・安心に大会が開催できるよう万全の準備を整えているところです。世界が注目する国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」の定期的な開催を通じて、「サイクリストの聖地」として国内外への認知度を一層高め、ブラ

一般社団法人 愛媛県建設業協会 今治支部  
今治建設業協同組合

支部長 日浅 則仁  
支理事 他 会員 組合員一同

〒794-0085 今治市いこいの丘4番地2  
☎(0898) 22-1477 FAX(0898) 24-1398

ンド力のさらなる向上と持続的な魅力発信に向け、引き続きしっか

りと取組を進めてまいります。

### 3回目のワクチン接種を加速させて市民の命と健康を守るとともに、社会経済との両立を図る

——最後に新型コロナウイルス対策です。高齢者等の3回目のワクチン接種が順調に進み、64歳以下への接種も本格化しています。オミクロン株による第6波を受けた今治市の感染対策や今後の新たな感染拡大への備えなどについてお願いします。

**徳永**

本市においては、昨年11月上旬に陽性者が確認されてから2か月以上、新規の陽性者ゼロが続いていましたが、全国的なオミクロン株の感染拡大に伴い、1月からの陽性者数は、2月末時点で1,045名となっています。1日当たりの最多陽性者数は、2月27日の51名でした。オミクロン株の特徴としては、潜伏期間が平均3日程度、感染サイクルが2日程度と、感染が伝播するスピードが速いと指摘されており、一気に感

染拡大していきました。また、従来株と異なり、20代以下の若年層に陽性者が拡がり、家庭内、仕事関係、学校等という感染経路によって徐々に高齢者に拡がるなど、2月末までに16件のクラスターが発生しました。

感染の拡がりを抑えるには、普段から感染予防に気を配り、正しく恐れるようにすることが肝要です。

効果的な対策としては、感染症対策専門家の方々からの提言を受け、接触機会の確実な低減のための「人数制限」を中心に取り組んできました。感染を抑制しながらも、なるべく社会経済活動との両立を図るとともに、重症化リスクを最小にできるように、機会あるごとに私からも市民の皆さんに呼び掛けをさせていただきました。な

によりも医療の逼迫、医療崩壊を招かないよう最大限に留意しつつ、今治市医師会に協力をお願いして、県と緊密に連携をとりながら、市民の皆さんの命と健康を守るための医療体制確保に努めてきたつもりです。

感染予防の一つの方策として、3回目のワクチン接種については、12月から医療従事者への接種を始め、当初の計画では2月中旬から一般高齢者へ接種を始めることとしていました。しかし、オミクロン株が年明けから今までにない勢いで感染拡大し、ワクチン接種が急がれたため、今治市医師会の全面的な協力のもと計画の見直しを行い、半月程度、前倒しして接種をスタートしました。

昨年の1回目のワクチン接種の際には、接種予約を一齐に開始したことで、予約時に大変な混雑を招いてしまい、市民の皆さんにご迷惑をかけてしまいました。こうした反省点を踏まえ、3回目の接種予約時は、接種の時期が来た方から順次、接種券をお送りする方

式に改めたことで、スムーズに接種をスタートすることができました。2月中には接種を希望する65歳以上の高齢者への3回目接種もほぼ完了し、ワクチンの供給量と調整しながら、2月28日からは64歳以下への接種も前倒しで進めてまいりました。

また、5歳から11歳以下の方につきましても、3月6日から、お子さんへのワクチン接種ができるよう体制を整えていますので、接種を希望される方は、接種するごとのメリット（発症予防）、デメリット（副反応など）について、ご家庭でご相談いただき、基礎疾患をお持ちの場合などは事前に主治医とご相談のうえ、ご判断いただき、接種していただければと思います。

感染を頭打ちにし、収束に向かわせるためには、手指消毒や不織布マスク等の正しい着用の徹底など、市民の皆さんお一人おひとりの協力が不可欠です。コロナウイルスの特性を正しく認識するとともに、「ウイズ・コロナ」か

ら「アフター・コロナ」を見据えては、今治市の輝ける明日へ、新型コロナウイルス感染症を乗り越えてきた明るい未来へと、市民の皆さんと共に新しい風を確かなものにしていきたいと思っております。

## 市独自の補助金を創設するなど、打撃を受けた事業者に寄り添う支援に取り組み

—— コロナ禍の影響を受けた事業者支援についてはいかがですか。

**徳永** コロナ禍においては、感染症対策に万全を期す一方で、社会経済活動の継続への取組も欠かせません。本市では、新型コロナ

ウイルス感染症により影響を受けた市内産業を支援するため、「がんばる企業元気応援モデル事業費補助金」を創設し、新商品の開発やICT、AI等を活用したデジタル化、新たなビジネスモデルへの転換などに取り組み市内企業に最大100万円を補助させていただきました。さらに、感染拡大の

長期化により、経営に影響を受けている今治市内の中小企業の皆様には、いわゆる「えひめ版応援金」として、20万円（個人事業主は10

えた明るい未来へと、市民の皆さんと共に新しい風を確かなものにしていきたいと思っております。

万円）を愛媛県と連携しながら給付させていただくなど、厳しい状況の中、懸命に頑張っておられる事業者の皆様の事業の継続、強化に取り組んでまいりました。

特に影響が大きい飲食店については、業態転換、DX等の新たな取組を支援するために、最大20万円を補助する「飲食店新たなチャレンジ支援事業」を年度当初から実施しています。

また、昨年10月からは、「今治市飲食店ウィズコロナ対策事業」として、感染対策が行き届いた飲食店を増やすべく伴走支援に取り組み、「愛顔の安心飲食店認証」の取得を後押しすることで、感染症対策の環境整備を着実に進めてまいりました。認証店は2月末時点で667店舗まで広がっています。

さらに、年初からオミクロン株が急拡大する中、感染症対策の環境整備を前提として、飲食店支援に向けた行動変容にオール今治で取り組むため、「今治市飲食店応援パッケージ」をスタートさせました。コロナ禍であっても、ルールを遵守した上で飲食店をご利用いただけることを、あらためて市民・企業の皆様に周知・徹底させていただくとともに、今治市が率先して「フレックス昼休み」、「週一テイクアウト運動」、「今治テイクアウト販売会」等に取り組んでいます。

市民・企業の皆様と一緒にあって、新たな行動変容を起こしていくため、この取組にご賛同をいただいた市内13の企業・団体の皆様と共に、オール今治でウィズコロナ時代に対応した行動変容への取組を進めてまいります。

正念場が続きますが、これからも感染状況や地元企業の経営環境を見極めながら、事業者の皆様寄り添った支援を行ってまいります。

# 大和証券

Daiwa Securities

## 松山支店

松山市三番町3丁目9番地10

TEL 089-941-7101

<https://www.daiwa.jp>



社会に役立つ  
お金の流れをつくる